2020 年 5 月 3 日 川越教会

丸山　勉

「分断」ではなく「愛」をもたらす聖霊

[聖書] 使徒言行 1 章 3〜14 節

イエスは苦難を受けた後、御自分が生きていることを、数多くの証拠をもって使徒たちに示し、四十日にわたって彼らに現れ、神の国について話された。そして、彼らと食事を共にしていたとき、こう命じられた。「エルサレムを離れず、前にわたしから聞いた、父の約束されたものを待ちなさい。ヨハネは水で洗礼を授けたが、あなたがたは間もなく聖霊による洗礼を授けられるからである。」さて、使徒たちは集まって、「主よ、イスラエルのために国を建て直してくださるのは、この時ですか」と尋ねた。イエスは言われた。「父が御自分の権威をもってお定めになった時や時期は、あなたがたの知るところではない。あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」こう話し終わると、イエスは彼らが見ているうちに天に上げられたが、雲に覆われて彼らの目から見えなくなった。イエスが離れ去って行かれるとき、彼らは天を見つめていた。すると、白い服を着た二人の人がそばに立って、言った。「ガリラヤの人たち、なぜ天を見上げて立っているのか。あなたがたから離れて天に上げられたイエスは、天に行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになる。」使徒たちは、「オリーブ畑」と呼ばれる山からエルサレムに戻って来た。この山はエルサレムに近く、安息日にも歩くことが許される距離の所にある。彼らは都に入ると、泊まっていた家の上の部屋に上がった。それは、ペトロ、ヨハネ、ヤコブ、アンデレ、フィリポ、トマス、バルトロマイ、マタイ、アルファイの子ヤコブ、熱心党のシモン、ヤコブの子ユダであった。彼らは皆、婦人たちやイエスの母マリア、またイエスの兄弟たちと心を合わせて熱心に祈っていた。

[序]　5 月にはいりました

おはようございます。もう 5 月に入りましたね。具体的に顔と顔を合わせることが出来なくても、ご一緒に御言葉に聞くことが出来ることを嬉しく思っています。新型コロナウィルスの収束まではまだ時間がかかりそうですね。「ステイホーム（家に居て）」と日本中で言われている中、ちょっと息苦しさを覚えている方もいらっしゃると思います。私もその一人です。私たち個人差はあると思いますけれども、健康のこと、家族のこと、また仕事やお金のこと、そして現在や将来の世界のことなども考えながら、**皆どこかで不安を抱えながら生きている**のだと思います。その意味では、与えられている**一日一日を生きる**ということがとても貴重なことのように思えます。よく海外の映像で、ベランダなどに出て、お互いにために**「よく頑張っているね」**という思いで、**お互いに拍手をしている姿**が映りますよね。いいなぁ、と思います。拍手って、不思議と癒されますよね。言葉以上の何かがあります。このマイクを通してではありますが、私も皆さんに、そしてあなたに拍手を送りたいと思います。**（拍手）**。

[1] イエス様から使徒たちの働きへと

5 月は、**使徒言行録**（その前半の部分）をご一緒に味わいます。先週までは福音書でしたけれども、ここからはもう目に見える姿ではイエス・キリストは出てきませんね。「使徒」言行録と言う位に、ここからはイエス様の使徒（弟子）たちの働きが描かれています。つま

り、**初代クリスチャンたち**の働きです。**イエス・キリストを信じる者たちの出発点**がここにあります。今、コロナで、なかなかお互いに会って礼拝を守ることが出来ない中にありますが、そのような中で、**信徒の共同体**の始まり、**教会**というものがどのように始まったのかをこの使徒言行録から聴いていくことが出来ることに、不思議な神様の導きを感じてしまいます。

3節を見ますと、**甦えられた主イエス**は、40日間にわたって、たびたび弟子たちの前に現れ、数々の確かな証拠を持って彼らにその事実を示し、神の国のことを語られたとあります。イエス様が甦られたということ、それは何か肉体が再生したということではなく、私たちが把握しきれない、**神様が支配される新しい次元**の中に主は入られたということですよね。しかも40日間も、新しいその体をもって弟子たちと一緒に過ごされました。これはどんなに大きなインパクトを彼らに与えたかと思います。彼らは勇気づけられたと思いますね。「この方が一緒だったら恐いものはない。この方について行こう」と思ったと思います。

しかし彼らはまだ思い違いをしていたのですね。6節に**「さて、使徒たちは集まって、「主よ、イスラエルのために国を建て直してくださるのは、この時ですか」と尋ねた。」**とあります。弟子たちは「この方ならこの国をよくしてくれる。もう一度イスラエルの誇りを取り戻してくれる」と思ったのです。言ってみれば、イエス・キリストを**ヒーロー**にして、私たちもその勝ち馬に乗れる、誇りを持てる、というような**政治的な救い主待望**があったと思います。

実は使徒言行録というのは、そのような"人間的"と言うか、**自分本位のメシア待望を打ち砕く出来事**を示している書物だと思います。信仰とは、誰か社会的影響力が強い者にくっついてその者に忖度し、自分もまた高められるという、そのためにあるのではないですよね。

その弟子たちの言葉の後にイエス様はこう言われました。**「父が御自分の権威をもってお定めになった時や時期は、あなたがたの知るところではない。」**と。イエス様は、思い違いをしてはいけない、イスラエルが国力を取り戻すためにわたしは甦ったのではない、そのようなことは父なる神のご支配にお任せしなさいと。それよりももっと大事なことがある。それは**あなた方自身のこれからのことだ**と言わんばかりに、主は続けてこのように言われました。―**「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」**

この言葉には、弟子たちは驚いたと思います。「主よ、いつですか、主よ、一体どんなことをしてくださるのですか？」と問うていた者に、主は、「これからは**あなた方がわたしの証人**となっていくのだよ」と言われました。言ってみれば、イエス・キリストがもたらして下さった**神の国**、それを宣べ伝えるのは**あなた方自身**なのだ、あなたは、神様の前に自立した一人の信仰者と立っていくのですよ、と語られたのです。そしてそれは、人間の力、人間のわざによって立っていく、というのではないのですね。**「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。」―「聖霊」の力**を受けてあなた方は立っていくのですよと語っておられます。―これは、私たちが神様から遣わされて行くということの原点だとも思います。

更に、**「エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わた**

しの証人となる。」とあります。つまりこれは、ごく狭い地域の出来事ではない、ということですよね。「聖霊」は、弟子たち、私たちをも用いて、**「主は生きておられる」**というその福音を、**全世界に運ぶ**のだと言うのですね。事実、使徒言行録はそのような描写になっているようです。1 章から 7 章まではエルサレムでの宣教が、8 章から 12 章は大体ユダヤとサマリア地方の宣教が、そして 13 章から 28 章までは外国すなわち異邦人への宣教が描写されています。そして、その延長戦上に、時と場所を超え、**日本で生きる私たち**も含まれているのです。「聖霊」が及んでいない場所は世界のどこにもないのです。

［2］ 「分断」をもたらす人間の心

さて、**新型コロナウィルス**の問題は、今世界中に及び、私たちがかつて経験したことのないような事態として広がっています。地球上である地域で感染者が減ったと思ったら今度は別の地域で増大してきています。同じ地域でも収まりかけたかのように見えて、再び第二波の感染拡大が確認出来ています。一体いつ収束する兆しが見えるのでしょうか？現代の哲学者たちは、このコロナの時代、またコロナ後の時代というのは、人間は、**全く新しい生き方**を選び取っていくことになるだろうと語っています。このコロナが世界に広がった背景には、ある学者は、世界の環境破壊の問題も、経済格差の問題もあると語っています。

そんな中で、今私たちが一番気を付けなければならないことはコロナが**新たな「分断」を引き起こす**ことだと言われます。例えば、今は人と会うことや移動そのものが困難になっていますけれども、車のナンバープレートを見て、ウィルスを持って来るなと裁いたり、高齢者が外を歩いているだけでステイホーム、「帰れ」と怒鳴りつけられたりしたという話も聞きます。「社会的距離の確保」や、他者と出会う時にマスクの着用ということは大切だと思いますが、どうしても電車に乗らなければならなかったり、マスクを忘れていたとしてもその人が犯罪者なのではありませんよね、勿論。コロナも恐れなければいけないと思いますが、もっと恐るべきものは、このギスギスした心ではないでしょうか。これが、この「分断」が、**全世界**に蔓延していったら、それは恐ろしい世界です。**排除し合う世界**になってしまい、ウィルスがきっかけになりながら、人間が、人間の世界を自分たちで破滅へと導いてしまうということになりかねません。ここには神様からの警告があるように思えてなりません。

［3］ 主イエスは今も生きておられる

「聖霊」というのは、その逆の働きをもたらしてくれる力なのではないでしょうか。イエス様がこの地上を歩まれたのは 30 数年に過ぎません。そして私たちは誤解をしてしまうのです。彼は素晴らしい人物であったけれども既に過去の人、終わった人だと。しかし今日の聖書はそうは言っていません。―**「こう話し終わると、イエスは彼らが見ているうちに天に上げられたが、雲に覆われて彼らの目から見えなくなった。イエスが離れ去って行かれるとき、彼らは天を見つめていた。すると、白い服を着た二人の人がそばに立って、言った。「ガリラヤの人たち、なぜ天を見上げて立っているのか。あなたがたから離れて天に上げられたイエスは、天に行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになる。」**―主イエスは、今も生きておられるのですね。「聖霊」を送るという約束をなさり、すぐその後で神様の許に挙げられたのです。(昇天)。人間の目には見えなくなりましたけれども、だからこそ、主はいつでもどこでも、時と空間を超えて、私たちと共にいて下さる神となられたのですね。**救いの歴史の決定**

的転換点がこの日だったのです。白い衣を着た者（御使い）は、主イエスは世の終わりまで永遠に生きておられる方として、やがてこの世界の完成の日に**再臨**されると語られました。
その時まで主は私たちを孤独にすることはありません。目に見えないからこそ、私たちの内に住むことが出来る神として、**聖霊の形をとって、主は生きているのです。**

既にヨハネ福音書 20 章で、ユダヤ人たちを恐れ、一室に閉じこもっていた弟子たちの只中に現れた復活の主は何と言われたか。―「聖霊を受けなさい」と言われました。聖霊を受けるとは、今日の箇所で主ご自身が言われたように**「わたしの証人、復活の主の証し人」**となることです。何か自分が偉い存在になることではありません。ただ、主イエスが生きておられること、それを身をもって証しすることだと言われます。具体的にはどういうことなのか。

［結］　あなた方を休ませてあげよう

それを考えた時、ふと思い起こしたイエス様の言葉が、**マタイ福音書 11 章 28 節**でした。**「疲れた者、重荷を負う者は、誰でもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう」。**―今、世界は**疲弊**しています。とてつもない**重荷**を背負っています。それに潰されそうです。自分が潰されないために、**他者を攻撃**し始めています。自ら**「分断」**を作っています。この分断を乗り越えさせてくれるのは、イエス様が示して下さった**「愛」**でしかないと思います。まず私たちの重荷をイエス様の許に行って休ませて頂きましょう。そしてその上で、<u>自己中心の心を脇において、共生するということ</u>です。「聖霊」は、或る意味ウィルスと同じように**平等に、国の壁を超えて働きます。**しかし、ウィルスにないものを聖霊は持っています。それが**「愛」**です。どんな者をも救われる**十字架の愛**です！驚くべき恵み（アメイジンググレイス）です。私たちはただこのイエス様につながっていればいい。イエス様から意図的に離れなければいい。**本当に休ませて下さるこの葡萄の幹なるイエス様**から離れると、私たちは倒れてしまうのではないでしょうか。そうならないために、神様は**聖霊**を送って下さったのです。

ティモシー・モートンという哲学者は、「新型ウィルスを敵と思うな」と言いました。完全に撃退することは困難。今私たちの生き方で大事なのは、<u>「サヴァイバル」ではなく、「アライブ」</u>だと言います。生物的な命の確保よりも、本当に他者と共に生きることでお互いに生き延びられる、正にそういう時だと言うのです。聖霊に促される者は、**自分のエゴと戦う者**だと思います。グーチョキパーで言えば、私は思ったのですが、クリスチャンというのは、手を広げる**パーで生きる者**ではないかと思いました。こぶしやつるぎ（グーやチョキ）ではなく、**自分の心を神様に、そして他者に開く**のです。「そんな生き方では他の人に潰される」？たとえ潰されてもいいではないですか。イエス様も潰されて、そして**復活**されたのです。私たちの復活のための“初穂”となられるために。私たちは、たとえこの地上で荒海の中の小舟に乗っていたとしても、主がそこに同船して、**不思議な安らぎ**を与えられて旅が出来る存在です。不安いっぱいの中にあっても、**主が共に生きていて下さっている**ことを信じ、また**多くの仲間がいる**ことを思いながら、勇気を与えられて日常を生きていきたいと思います。お祈り致します。

―神様、あなたは私たちに「聖霊」という最大の贈り物を送って下さいました。ですから私たちは分断ではなく、あなたの愛に生きることが出来ます。こんな者が赦され、あなたの御業に用いられる幸いを思い、感謝致します。この世界を憐れんで下さい。今苦しみ、悲し

みの只中にいる人々をお救い下さい。特に懸命に働いておられる医療従事者の方々をあなたが守り、支えて下さい。また、病の中にある方々を、あなたが寄り添い、癒して下さいますように。主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。